

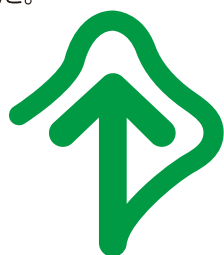
前号『福祉かなざわ』108号では、「やさしいまち金沢で見つけたマーク」について、6つのマークを取り上げました。これをご覧になられた区民の方から、『「耳マーク」が無くて残念に思いました。大人になってから難聴になり、初めて知った『耳マーク』。普及させようと思ってなかなか難しい。次回紹介してほしいです。』とのご意見をいただきました。108号では、ご紹介したいマークがたくさん挙がる中、「編集委員会がまちで見つけたマーク」に絞った経緯があったこともあり、全てのマークを取り上げることができませんでした。取り上げた6つのマークをきっかけに他のマークにも関心を抱き、知ってほしい、という願いも込め紙面を作成しました。

この度、貴重なご意見をいただきましたので、こちらで、「耳マーク」を紹介します。

☆☆耳マーク☆☆

耳の不自由な方が耳が不自由であることを表すマーク。また、公共機関等で耳の不自由な方の支援を行うことができるという意思表示に掲示されることもあります。

“このマークを身につけている方を見かけたら、ゆっくりと話したり、手話や筆談をするなど、ご配慮ください”。



＊ ＊ ボランティアセンターだより ＊ ＊



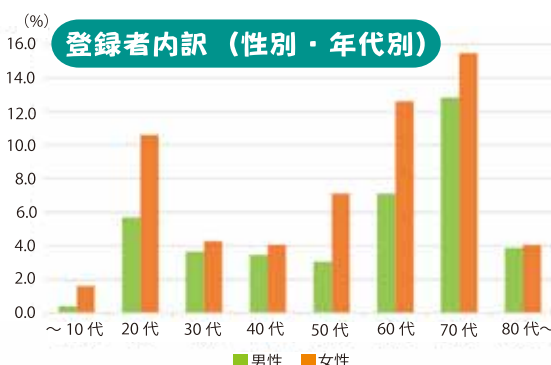
金沢区ボランティアセンターを紹介します。

金沢区ボランティアセンターでは、ボランティアの総合相談窓口として情報提供や活動コーディネート等を行っています。ボランティアについて「知りたいこと」「聞きたいこと」がありましたら、来所または電話にてお気軽にお問合せください！

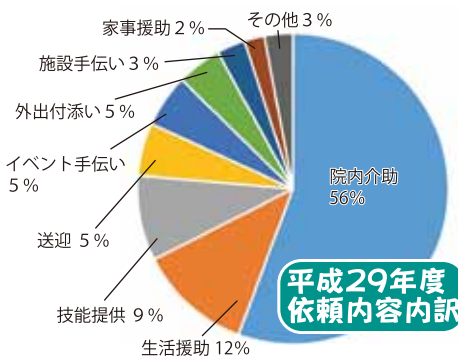
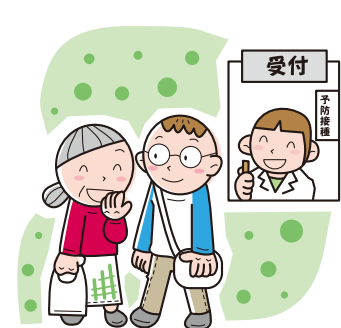
＊ ボランティアをしてみたい

あらかじめおうかがいした情報をもとに、分野・曜日・時間帯等、ご希望に沿った活動や団体をご紹介します。そのほか、スキルアップを目的に、初心者向け「ボランティアミニ講座」をはじめ各種講座や勉強会・説明会等を開催しています。

平成30年3月末現在、金沢区ボランティアセンターでは合計2,669名に登録いただいています。



ボランティアミニ講座の1コマ



＊ ボランティアに手助けしてもらいたい

日常生活での困りごと、外出付き添い、イベント手伝い…、ボランティアによる手助けを希望される場合はご相談ください。内容に応じて、ボランティア活動者とおつなぎします。

詳しくは

**金沢区
ボランティアセンター**

開館日：月曜日～土曜日（祝日および毎月最終土曜日を除く）

開館時間：9：00～17：00

TEL：045-784-2222 FAX：045-784-9011 担当：宮田・斉藤

善意銀行寄託者 平成30年6月16日～9月22日

明るい社会づくり運動金沢区協議会、横浜ポートヒルライオンズクラブ金沢茶道会、(株)イトーヨーカドー能見台支店労働組合能見台支部、日本発条労働組合横浜支部、泥亀町内会、(株)千歳観光グランドアクア、金沢区佛教会他匿名3件、物品寄附4件（玄米60kg、6輪車椅子1台、精米約8kg、商品券10枚）

計358,636円 ※区内の福祉団体へ配分します。ご協力ありがとうございました。



平成30年12月1日発行

「福祉かなざわ」編集委員会
社会福祉法人横浜市**金沢区**社会福祉協議会

〒236-0021 横浜市金沢区泥亀1-21-5

Tel 788-6080 Fax 784-9011

HP <http://www.kanazawa-shakyo.jp/>

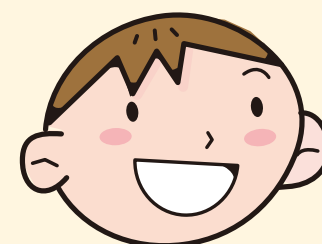
Mail info@kanazawa-shakyo.jp



※「福祉かなざわ」のバックナンバーをご希望の方は、金沢区社協までお問い合わせください。

特集

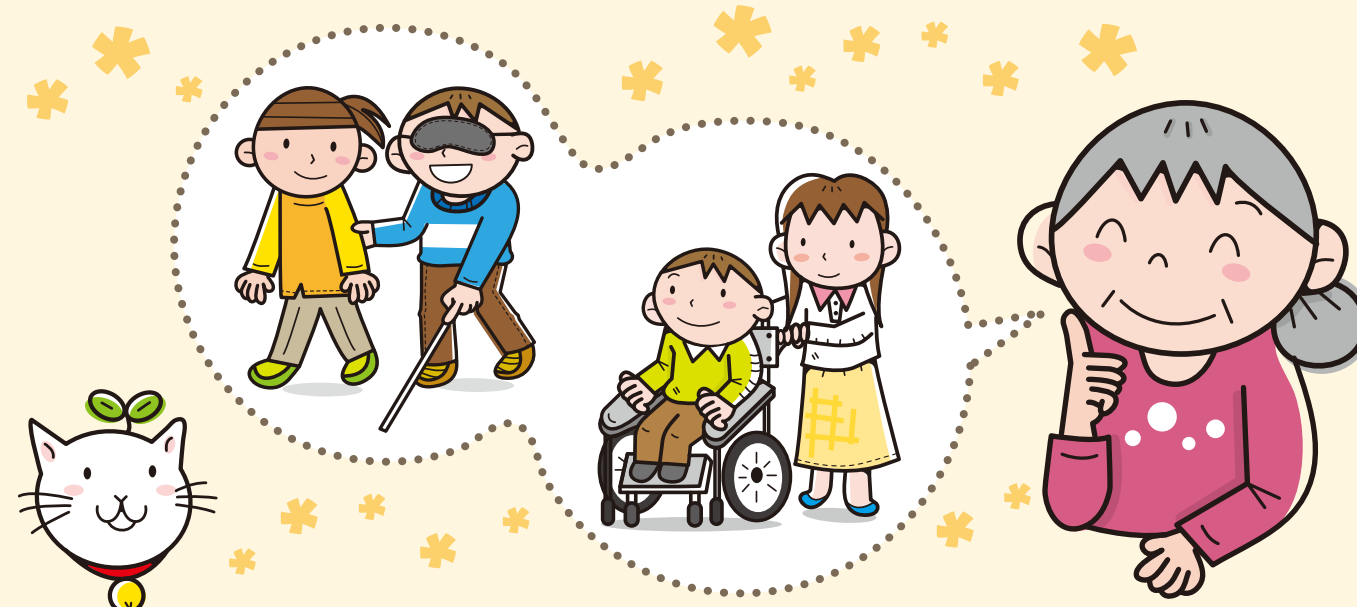
やさしいまち 金沢～福祉はめぐる いつまでも



ねえ、ねえ、おばあちゃん！
きょう、学校でね、

ふくしが はじまったよ。

ーウキウキしている金沢さんちのはじめちゃんは、
車イス体験、白い杖で歩く体験をしたのかなー



潮風あびて、サマーフレンド

8月10日、金沢文庫から電車を乗り継ぎ、山下公園までやって来たサマーフレンドの一行。中高・大学生、社会人ボランティアとペアを組んだ子どもたちはウキウキと遊覧船に乗り込みました。下船後「興味半分で参加したけれど、自分にも何かできそうな気がした」と話してくれた中学生は、緊張がとけてほっとした顔を見せていました。サマーフレンドをきっかけに、地域ケアプラザでボランティアを始めたり、区ボランティアセンターに登録する人もいます。



さあこれから60分の遊覧船体験です



【サマーフレンド】平成15年度にスタートした、障がいのある子どもたちとボランティアが夏休みの一日を過ごす取組み。保護者の休息にも一役買っている。この夏は遊覧船体験のほか、地域ケアプラザでの夏祭り、ラーメン作りも楽しんだ。金沢区のサマーフレンドはケアプラザと区社協が連携して企画・運営を担っている。



ベイブリッジを目の前に歓声も

始まる～広がる～ 続いていく

認知症のこと、障がいのこと、一緒に過ごすこと…
あっ！ふくしでつながっている

知的障がい理解のために、 親だからできること

7月31日、麦田地域ケアプラザの「ボランティア入門講座」はわっしょいが講師でした。小道具を使った疑似体験やコミュニケーション体験は、知的障がい者の日常の「もどかしさ」がよくわかると評判です。

この日も障がい者の電車内での行動と周囲の対応、声掛けのコツなどを披露。メンバーの中村さんは「障がいのある人が安心して生活していくには、家族や支援者だけでなく、周りの人たちの温かい理解と見守りが必要です。」

親だからこそ伝えられる気持ちで活動を続けていくと話していました。

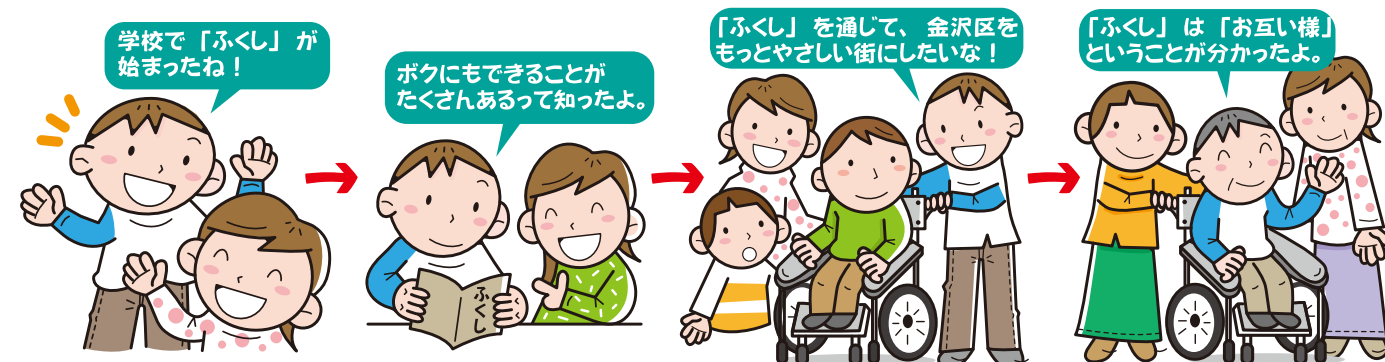


電車内で障がいのある人が話しかけるシーンを再現

【障がい児者支援・啓発ネットわっしょい】金沢区を中心とした障がい児者の家族とボランティア、地域の人をメンバーに平成18年5月結成。行事協力などを含む当事者団体支援、ワークショップ方式を取り入れた発達障がいなど知的障がいへの理解啓発支援活動を精力的に行っている。



軍手を二重にして折り紙を折ってみると…もどかしいです



地域の人の居場所での触れ合いと 折り紙おって、お菓子を食べて

9月2日、「もりのお茶の間カフェ」は雨にもかかわらず満員御礼。2年生と5年生の女の子（「子ねこさん」）が来ると、全員の顔がほころびました。二人には祖父母に等しい参加者と折り紙をしたり、お茶・お菓子を運んだり片付けたり。引率した地域の女性は「地域の人との接点は挨拶を交わすきっかけになります。また、こうした場で自分がどうしたらいいかを考える経験は、災害時の行動に役に立つと思う」と言います。4回目となる5年生の子ねこさんは「だんだんにぎやかになってほんわかしてきた」、2年生の子ねこさんは何がなんだかわからない様子。緊張や戸惑いも成長の一步になります。

【もりのお茶の間】毎月第1日曜、空き家を改修して立ち上げたまちの居場所（「もりのお茶の間」・六浦東）で、地域の人を対象にしたカフェ＋介護予防の集まり。「子ねこ」さんはそのカフェを手伝いにくる児童の愛称。横浜市立瀬ヶ崎小学校1～6年生30人の中から、毎回2名程度が参加し、交流を図る。



お茶をどうぞ ありがとう



周りの人に教えられながら折り紙

まちぐるみで認知症の人を見守る

8月26日、富岡会館で開かれた「ロバの会」認知症サポーター養成講座には、地域の人や金沢東部会の9つの郵便局の職員が多数参加しました。「自分もなるかもしれないから、周りに認知症を知る人が増えればうれしい」と

50代の女性。認知症が疑われる人への対応という設定の寸劇に飛び入り参加し

た局の職員は、相手の話に耳を傾けて言葉をかけていました。高齢化は日々の窓口対応で実感するというある郵便局長は「郵便局が安心安全な場所」になるよう啓発と実践を心がけたいと話していました。



この日集まった「ロバの会」のみなさん



飛び入り参加の郵便局職員（左）

【ロバの会】富岡第二地区とシーサイドタウン地区のキャラバンメイトが中心に、平成26年4月に結成。認知症サポーター養成のために、小中高・大学や職場を訪問し、また、自治会町内会の集まりの場で講座を開いている。講座を受けたしるしに、オレンジリングや「認知症サポーターがいます」と書かれたシールを用意・配布している。



福祉とは、お互い様の関係から生まれる人と人のつながり。子どもから大人へ、障がいのある人やお年寄りへ、そして、地域へ。その原点となるボランティア活動を通じて「ふくしがはじまった」うれしさを誰もが持ち続けられれば、金沢はやさしいまちになっていきます。